



# 西浮通信

令和5年9月29日  
NO. 395  
東京都北区立西浮間小学校  
校長 小島 みつる

## 絵本「教室はまちがうところだ」より

校長 小島 みつる



やっと秋を感じられる気温になってきました。北区では10月6日に1学期終業式、10日に2学期始業式を迎えます。西浮っ子も皆、4月から様々な学習に熱心に取り組んできました。6日に通知表「あゆみ」をお渡しします。「あゆみ」には、「よくできる・できる・もう少し」の評価と、先生方の子供への思いが詰まった文章記述の「所見」欄があります。所見には、どのような力が付いたか、どのような頑張る姿が見られたか、これからさらに頑張りたいことは何か、といった一人一人をよく見、その子だけへのメッセージが記述されています。「よくできる」の○が何個あったか、ということだけでなく、所見の内容をお子さんと一緒に読み、1学期を振り返り、成長を認め、褒め、次なる課題に向けて励ましていただければと思います。どうか温かい声かけをよろしく願いいたします。

さて、授業の様子を見たり、全校児童の所見を読んだりすると、分かっているのに、考えがあるのに発言しない児童が多くいることに気付きます。自分の考えを言葉にして人に伝える力は、学習だけでなくよりよい人間関係を築いていくことにも重要です。また、正解だけしか出されない授業よりも、いろいろな考えやまちがえた考え・答えが出てきた方が、学び合いが深まります。積極的に考えを伝える児童が増えれば、いろいろな考え方やまちがいをきっかけに、追究や確認など活動の深まりにつながり、それは子供同士の関わりが増えることにもなり、学び合い高め合う人間関係がつくられていきます。



また、「まちがいをおそれずに発言する」ためには「まちがいを笑わない・ばかにしない」学級風土も不可欠です。先生方は日々、発言力を高める授業づくりや楽しい学級づくりに努力しています。そこで私は、毎年4月の全校朝会で、「教室はまちがうところだ」（蒔田晋治さん作・長谷川知子さん絵／子どもの未来社）という絵本を紹介し、冒頭を読み聞かせています。今年度は夏休み明けにも繰り返して話しました。著作権の関係で原文を載せることはできませんが、「教室はまちがえるところだから、まちがった人を笑ったりせず、まちがうことをおそれずに、どんどん意見を言い合おう！」という内容の詩です。詩はもちろんですが、絵を見ただけでも笑顔になり、元気をもらえるすてきな絵本です。各学級にも1冊ずつ配布してあります。実際に、子供や保護者の方から「この絵本から勇気をもらえた」というお声もいただき、うれしく思っています。

この「教室はまちがうところだ」の話をするとき、セットで話すのが「まちがえるのはかまわない。まちがえながら力を付けよう。でも、『間違ったこと』はしてはいけない。」という話です。全校朝会で『間違ったこと』ってどんなことでしょうか？と問いかけたところ、2年生の中から「やってはいけないこと！」と大きな声で答えが返ってきました。「そのとおり！では、やってはいけないこと、ってどんなこと？」とさらに聞くと、やはり低学年の中から「悪口！」「いじわる！」「仲間はずれ！」「暴力！」「いじめ！」と次々と正解が返ってきました。「そう！低学年の人たちもちゃんとわかっている、『やってはいけないこと』をわざとやることは『間違ったこと』ですね。分かっているのに人の嫌がることを言ったりやったりすることも『間違ったこと』ですね。『まちがえる』ことを怒る先生はいませんが、『間違ったこと』をすることは、西浮間小の先生方は許しません。教室で答えをまちがえることはかまいません。大歓迎！でも、それを笑うのは『間違ったこと』の一つです。これからもまちがいをおそれずにどんどん手を挙げて発表しましょう。そして、ちゃんとわかっている正しい行動をする西浮っ子でいましょう。」と話しました。



1学期間ご協力ありがとうございました。2学期もご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。